

令和 7 年 2 月 21 日

教 育 長 樣

代表者	校園名 :	大阪市立堀川小学校
	校園長名 :	衣笠 博政
	電話 :	6358-3336
	事務職員名 :	西 麗美
申請者	校園名 :	大阪市立堀川小学校
	職名・名前 :	首席・流田 賢一
	電話 :	6358-3336

令和6年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和6年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

6 成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>ポートフォリオ作成により、児童の学びの方向性がはっきりとする。単元末には学んだ内容と次への学び方を振り返り、自らの学びをメタ認知することができる。学び方を変革することで、児童の学力が向上する。</p> <p>『検証方法』</p> <p>経年調査国語科の「基礎・活用」（学力）で大阪市平均を超える。学びを振り返り「自分には力がついた」（学力のメタ認知）「今までの学習を思い出し、活用できないかと考える」（既習の活用）と回答する児童の割合が8割以上となる。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>研究メンバー当該学年の経年調査の国語科大阪市比較の正答「合計」+10.0（昨年+9.2：以下同様）、詳しく分析すると「基礎」+9.5(+8.0)、「活用」+11.0(+11.9)であり昨年と同様に大幅に大阪市平均を超えた。児童アンケートの肯定割合「自分には力がついた」100%、「今までの学習を思い出し、活用できないかと考えた」89.6%と8割を超えた。国語科は系統が見えにくい教科だが「前の物語から難しくなっているね。今回は新しく気持ちの変化を考えられたらしいんだ」「前の物語と似ているところがあるね」と既習を活用し、関連付けて学習する姿が見られた。先述のアンケート結果の割合が高くなってきたころに「苦手だったけど分かるようになってきた」と学びの力が身についたことを実感する言葉が聞かれるようになつた。その実感通りに経年調査では数値としても表れた。国語科では見えにくい系統を子どもたちに気づかせ、既習を活用する学びは有効であったと考える。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>国語科の個別最適な学びとは、共通のゴールに向かって自ら決めた方法により読み深める学びである。自ら選択・判断・追究することは、児童の意欲の向上、学ぶ力の向上につながる。受け身の学習ではなく、自ら学習するためポートフォリオを見返しながら学びを調整する姿も期待できる。子ども主語の学びは、学びの楽しさを実感することができる。</p> <p>『検証方法』</p> <p>経年調査国語科の「主体的に学習に取り組む態度」が大阪市平均を超える。児童アンケートの「課題解決に向けて最後まで取り組んだ」「どう学んだらいいかを考えた」「問題に出会った時に問い合わせることができた」「学ぶことは楽しい」の割合が9割以上になる。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>研究メンバー当該学年の経年調査の国語科大阪市比較の正答「主体的に学習に取り組む態度」+12.4（昨年+11.6）となり、昨年度の結果も大阪市平均も大きく超えた。児童アンケート肯定割合「課題解決に向けて最後まで取り組んだ」92.6%、「どう学んだらいいかを考えた」91.2%、「問題に出会った時に問い合わせることができた」96.2%、「学ぶことは楽しい」94.3%となり1学期調査より大幅に増加し9割を超えた。これは、個別最適な学びの学習形態を研究メンバーで話し合い、共通のテーマやゴールに向かって学級全体で学ぶ単元の流れを整理し、実践したこと。そこに向かう道筋（問い合わせ）は違っていてもいいと整理し、実践したこと。既習を活用し、どう学べばゴールに近づくかを問い合わせ続ける学びをめざして実践したことが、受け身で学んできた国語を変革したと考える。しかし、問い合わせの精選、学び方の育成には課題が残る。</p> <p>【見込まれる成果3】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>教科の本質、教材で学ぶ本質を見極めることでシンプルな授業展開となるため、教材分析力が向上する。大学教員や先進的研究校教員から今後求められる指導について学ぶことができ、児童主体の学びへと転換することができる。理論と実践をつなげて学ぶことができるため、児童の具体的な姿をもとに研究を進めることができる。</p> <p>『検証方法』</p> <p>研究メンバーへのアンケート結果から、指導力の向上についての肯定的割合が9割以上となる。公開授業研究会では、実際の児童の学びを見てもらい参会者の満足度が8割以上となる。系統を意識した学びを提案し、「系統を意識した授業を実践している」の割合を研究会への複数回参加者の割合が向上する。このことで研究の広がりを検証する。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>研究メンバーは全員が指導力の向上を実感できた。それは、①個別最適な学びを取り入れることで児童一人ひとりの学びを丁寧に確認できること。②子ども主語とはいえ指導者の教材分析や単元設計は欠かせないとということ。③個別最適な学びを実現するための単元設計の効果的な流れとして、協働で土台を作り一個別にゴールに向かう問い合わせを追求・協働でゴールに向かい整理しまとめる学びの実践を重ねた。以上のことより、児童の学びが豊かになった実感をもっている。公開授業で参加者の満足度は100%であり、研究報告に上記の3点を報告すると「子どもの発言を大切にした授業だった」「教材分析があるから子どもの学びが成立していると思う」「問い合わせから学びをつくる方法がいい」と賛同した感想をいただいた。また、「系統を意識した授業をしている」の結果は研究会1回目参加者の回答は62%、複数回参加者の回答は88%であり研究の広がりを実感できる結果となつた。</p>
---------	---

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>国語科での個別最適な学びの実践例が少ないため、本研究会での実践例提案や研究授業での提案を参考に実践が広がる。単元のどこに個別最適な学びを位置付けるかや、児童の学びの方法を分類整理する。研究会で以上のことを探し、参会者に個別最適な学びが広がっていく。</p> <p>『検証方法』</p> <p>教科の本質、教材で学ぶ本質をまとめたものを研究会で参会者に配付する。参会者アンケートの「自らの実践に活用したい」が8割以上となる。そして、参会者アンケートの「個別最適な学びを実践している」の割合を研究会への複数回参加者の割合が向上する。このことで研究の広がりを検証する。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>教材分析公開と公開授業研究会を関連付け、分析(理論)と学びの姿(実践)を切り離すことなく考えられる工夫をした。教材分析の段階から単元計画や本時の授業案を提示し、学習の系統や個別最適な学びを成立させる手立てを検討してきた。特に、単元計画の流れ(協働で土台を作り-個別に向かう問い合わせを追求-協働でゴールに向かい整理しまとめる学び)が好評であり、「自らの実践に活用したい」との回答が100%であつた。それは、公開授業の感想に「問い合わせを追求する学びが意欲的に考える姿につながっている」「つぶやきが止まらず、学びたいを感じる授業だった」とあり、公開授業の学びの姿を見て実践に取り入れたいと感じたのだろう。個別最適な学びを実践していると回答した割合は、1回目の参加者は31%、複数回参加者は66%であった。倍以上の結果であるが、新しく出てきた個別最適な学びを実践に取り入れることに難しさを感じている先生がまだ多いと感じた。</p>
		<p>【研究全体を通した成果と課題】 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>○成果・読書会・理論研修を重ね、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実に向けた授業デザインの提案ができた。【協働】読みの土台→【個別】問い合わせの追究(選択可能)→【協働】学びの共有・取組の結果として、学ぶ必然性を生む問い合わせ、必要感のある協働の学びが学力向上・学ぶ意欲向上につながった。</p> <p>・教材分析と授業を同一教材で公開したことでのべ200名以上の参加者がおり、本研究内容が参加者に広がった。</p> <p>●課題・個別最適な学びの本研究グループの定義を確立し、目指す子ども像を検討し具体的な提案につなげる。</p> <p>・個別最適な学びと協働的な学びのグラデーションを年間レベル、単元レベルで整理する。</p> <p>・子どもに学びの見通しをどう持たせるか。・価値のある問い合わせの設定、問い合わせの深化へつながる学びのあり</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>○成果・個別最適な学びを実現する単元の流れを研究グループ内で整理し、年間複数回実践できた。共通のゴールやテーマに向かい、問い合わせを追求することで学び方を変革させることができた。系統を意識した学びや個別最適な学びは、主体的な学習を実現し、学力向上につながった。意欲的に学び続ける姿や振り返りから、学びを自覚化していると感じた。以上のこととは調査結果の数値からも結論づけられる。のべ250名以上の参加者が私たちの研究へ賛同し、研究の広がりを実感できた。</p> <p>●課題・解明したい問い合わせがそれぞれ違うため、ゴールへ近づく距離も変わってくる。そのため効果的な問い合わせの設定の仕方を考えたい。また、個別最適な学びの時間は子どもが勝手に学ぶ時間ではないため、学びへの自由度と教師の指導性の関係を考えたい。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>〔代表校園長の総評〕</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>個別最適な学びと協働的な学びは令和3年答申として示された。個別最適な学びは、まだ実践例は少ないが本グループは単元モデルを作成し提案をした。公開授業での児童の姿は、学ぶことを楽しみ、それぞれの児童が学びに向かう姿が見られた。研究1年目として学力向上や意欲向上の結果が得られたことは成果である。多くの参加者とともに研究を進められたことも研究の「つながり」につながっている。今後求められる研究テーマに真摯に向き合い、研究を続けてきたことについてまとめることができた。研究に取り組む熱意を強く感じた研究であった。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>まさに「つながり」を追求した1年だったのではないだろうか。既習教材と学習教材のつながりを意識した学びを展開する。学習のゴールやテーマと自分の追求したいことをつなげて主体的な学びへと誘う。個別最適な学びだけを考えるのではなく、協働的な学びをつなげて実践する。個別で考えた問い合わせを全体の中でつなげて学級の学びとする。研究へ参加する他校の先生とのつながりを大切にし、共に学び合う。今後、学びを実感した子どもは自走するだろう。自走するためにはまだ研究を続け、さらなるつながりを児童・指導者・仲間と広げ、深化していく必要がある。これから研究がますます楽しみである。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>